

「おちから」のちから、三十三通田(平成三十二年十月)

荒行への入行が一月後にせまり、緊張感が高まってきた。同時に、荒行入行に際し、多くの方から過剰なご厚志を賜り、大きな感動と深い感謝の念が私の心いっぱいになっていきました。

「私の身にはもったいない程のご厚情。たくさんの方がこんなにも私を応援し支えてくださり、本当にありがたい。この想いに、全身全霊で応えていきたい。自己の甘えや弱さに負けること無く、百日間一所懸命精進してこよう。この荒行は自分ひとりぞ挑む修行ではなく、多くの方の想いを背負っての修行である。このことを常に心にどめおき、修行に励もう。心は私の何よりの力となる。」私は今、このような想いを抱いております。

荒行中に苦しくなちはなる程、皆さまの顔が思い浮かび、声が届く。折々そうなるのを励まし支えてくれます。心は程々強いものはありません。本当にありがとうございます。

百日祈願・百日回向

先月のお便りに同封させていただきました百日祈願・百日回向は、荒行での百日間、毎日欠かさず祈願と回向を読み上げ、神仏にお祈りをするものです。祈願は心願が成就するよう想いを込め、回向は霊位が成仏することと願い供養の志を捧げます。荒行中に心が落ち着くことは限られておりますが、その中でできる精一杯のことをこのようなカタチですせていただき、皆さまと共に修行をしていることを私自身の心に刻んでいきます。

真実のことば



私たちは、一人ひとりが様々な願いを持っています。心で神仏に願うことは、決しておかましいことではないと私は思っています。ただし、その時には、願いはなしの「お願ひ事」にするのではなく、願いに向けて自身の実践を誓い「誓願」として神仏へと届けることが大切であると考えています。この誓願を柱とし、ひたむきに実行していくことで、自身の願いを叶える力が神仏より授けらるのだと、私は信じています。

仏さまのお生まれになったインドでは、古来より「真実のことば」に対する信仰がありました。心は「真実のことば」には不思議な力が宿り、その力によって自身の願いが叶えられる」という信仰です。ここぞという「真実のことば」とは、「事実と違わない言葉」ということです。そして、発した言葉が実現困難な内容であればある程、心は「真実のことば」となった時に宿る力が大きく、大願も叶えることができるというのです。つまりは、有言実行によって力は宿り、願いは叶うということなのです。

心は今回の荒行において考えてみますと、私が「どんなに苦しい荒行でも、自身の甘えを断ち切り、怠けることなく修行をやリ遂げる」と宣誓し、この言葉が百日後に「真実のことば」として実現できたならば、私の掲げた「浄泉寺から世の中へ」と「ほんとうの幸福」を発信する原動力を得たい」という願いの道が開かれるとの想いが、くぐんできます。

心は心環境や願いは違えども、共に励むことによって諦めない力が湧き上がり、大きな願いをも叶えていけると私は信じています。私は荒行で、皆さまは日常生活の中で、「一緒にがんばっている」という想いを共有し、日々の歩みと力強く踏み出しているように思っています。荒行後に、成長した姿をお見せできるようなうしろと修行して参ります。